The Zoological Society of Japan

日本産倍足類及び唇足類の分類学的研究
19. ヤスデの1新属と2新種

三　好　保　徳　(愛媛県立北高等学校)

昭和 31 年 11 月 19 日受領

1. *Senbutudoiulus* gen. nov. (センブツヤスデ属)

本新属は Blaniulidae に属するもので, *Skleroprotopus* (リュウガヤスデ属) に極めて近縁のものであるが雄の第 1 歩肢の形態が全くそれと類を異にし *Skleroprotopus* の範疇にこれを入れることはできないと考え, ここにこれを新属として記載する次第である。

属徴: 第 1 歩肢は極めて大形, かつ扁平で基節より先端まで幅がほぼ等しく前背方へサジ形に少し曲つている。各節ともに前背面には剛毛密生し, 後腹面には各節ともその縁辺に剛毛を生じているのみである。大顎には 6 箇以上の櫛葉を有し, 前唇基節の幅は広く長卵形。眼は甚だ多くの単眼よりなる。臭孔は後環節の略中央部にある。尾部突起はない。雄の第 2 歩肢の端肢は *Skleroprotopus* に比して扁平で大形。前背面に剛毛密生し, 後腹面はその縁辺にのみ剛毛がある。以上の諸形態が本属の特徴であつて, 第 7 歩肢, 前生殖肢, 後生殖肢及びその他の形質においては *Skleroprotopus* によく類似している。

属模式種: *Senbutudoiulus platypodus* MIYOSI

Senbutudoiulus platypodus sp. nov. (センブツヤスデ)

種の特徴: 体は殆ど黒色, 雄で体長 50 mm 内外。体節数 60 前後のやや大形のヤスデである。眼は 50 以上の単眼が長い 3 角形をなして集合している。触角は第 3 節が最も長く, 第 5, 第 6 節の先には感覚棘が多く輪生している。各節における長さと幅との比は大体, 第 2 節では 19:6, 第 3 節では 23:6, 第 4 節では 17:6, 第 5 節では 14:6, 第 6 節では 13:7 である。大顎には大小 8 箇の櫛葉あり。雄の第 1 歩肢の端肢は大形で扁平, 4 節よりなり前背側に剛毛密生す。第 2 歩肢の基節は長く, 互に左右が結合せず, 陰茎は長く基節の先端をはるかにこえている。その端肢は扁平で 6 節からなり先端節は長い。雄の第 7 歩肢の基節は甚だ大形で剛毛を有し, 外縁の中央より少し基部へよつた所に 2 節からなる端肢がある。その端肢に小爪あり又はなし。前生殖肢の基節突起は狭長で膜状隆起縁あり。且内側中央に 1 本の剛毛を有す。その端肢は短く 1 節で剛毛あり。鞭状毛の先端は 2 叉しその長い方に毛が多い。後生殖肢の形態は図に示した如くで著しい特徴はない。
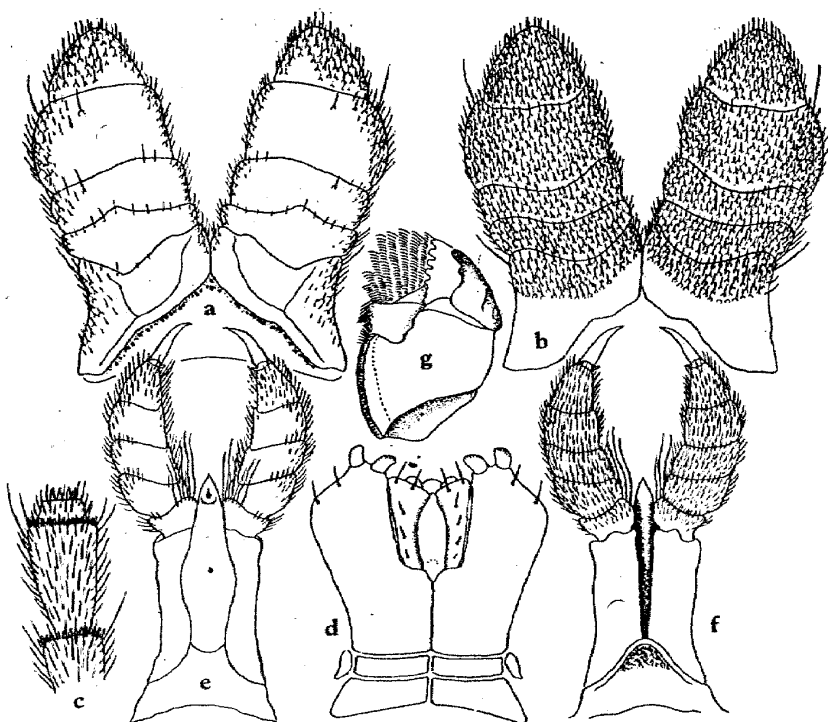
Abb. 1. *Senbutudoiulus platypodus* sp. nov.
a, b: 1. Bein　C: Endglieder der Antenne　d: Gnathochilarium　e, f: 2. Bein　g: prämandibel

NII-Electronic Library Service

The Zoological Society of Japan
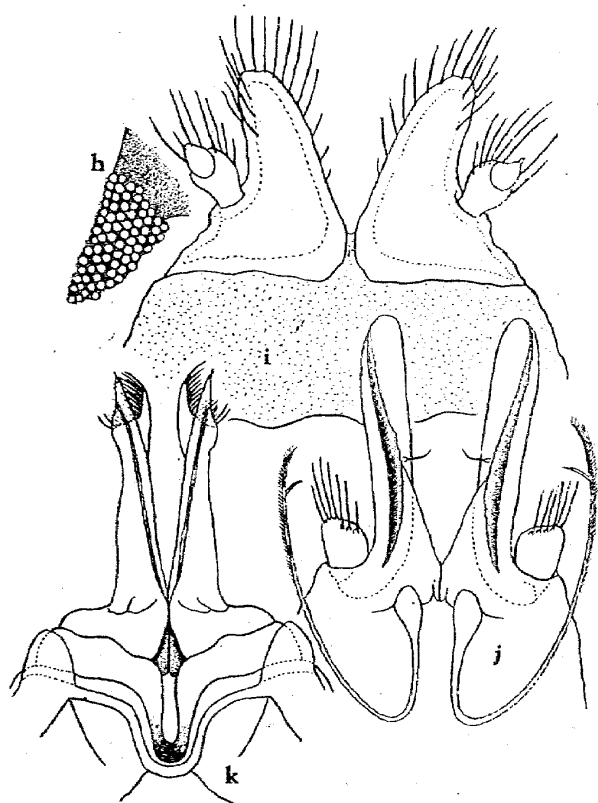
Abb. 2. *Senbutudoiulus platypodus* sp. nov.
h: Auge　i: 7. Beinpaar　j: Vorderer Gonopode　k: Hinterer Gonopode

完模式標本：体長 51 mm，体節数 62 の雄。その産地福岡県小倉市平尾台千仏洞内，石川重治郎氏及び窪田敏文氏によつて 1953 年 10 月 7 日採集された。他に体長 47 mm の雄及び雌の亜成体 2 疋を採集されている。

2. *Archandrodesmus japonicus* sp. nov. (オオギヤスデ)

この属のヤスデは Ceylon 島方面に数種知られているが，とくにここに記載する日本産の新種は Upper palnis: Kodaikanal, Bombay Shola, Mariyan Shola, Pumbarai, Kukkal Shola, Vandaravu, 1900–2000 m の地に産する *Archandrodesmus areatus* CARL に甚だ近似のものであつて，このような Cryptodesminae の種類が遠くはなれた日本の東部に多く棲息しているということはその分布上甚だ興味のあることであると考える。無論この故にこの両地の間には連続的に同属の種が分布しているであろうという予想をたて我々としては琉球，九州，四国の海岸に近い地域を今後特に注意をはらつて調査しなければならないことになつた。さきに本誌上で記載した *Ampelodesmus granulosus*, *Eucondylodesmus elegans* など皆本種と同科のものであり又一様に甚だ小形のものである。とにかく遠い南の熱帯に繁栄していて日本には甚だ少いと考えられていた Cryptodesmidae—クビヤスデ科 のヤスデがつぎつぎと我国内から発見されて行きつつある事実は，日本への南方系動物の分布の問題を考える場合，極めて興味あることであると信じている。
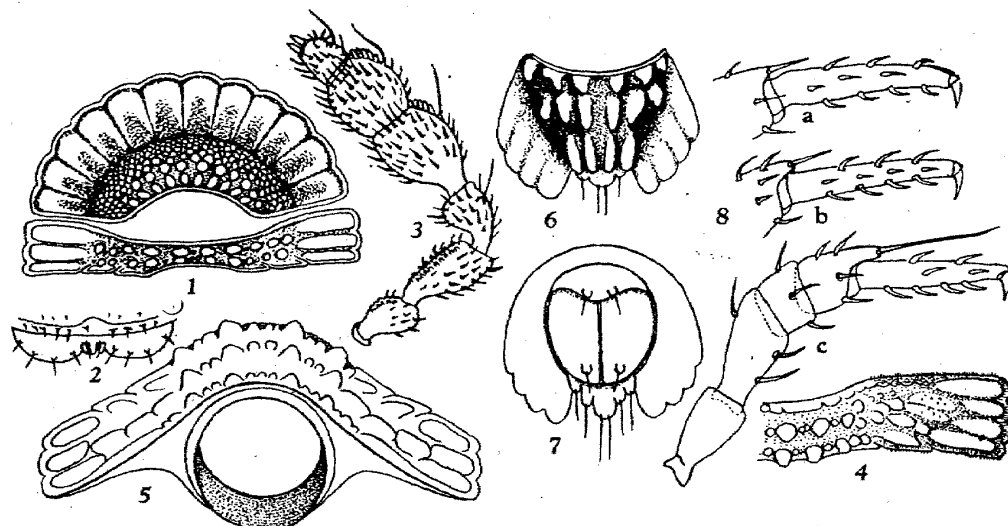
Abb. 3. *Archandrodesmus japonicus* sp. nov.
1: Halsschild und 2. Metazonit　2: Labrum　3: Antenne　4: 5. Seitenflügel　5: 7. Segment von vorn gesehen　6: Analsegment von oben　7: Dasselbe von unten gesehen　8: Letzte 3 Beine von ♂.

NII-Electronic Library Service

The Zoological Society of Japan

本新種の特徴：体色生時淡朱紅色，アルコール標本では淡い黄土色となつている。体長：雄は 4-4.5 mm, 雌は 5-5.5 mm で体幅は約 1 mm。額板の上唇に近い方に若干短剛毛あり，頭頂には毛なく小乳頭状顆粒が一面に生じている。触角は棍棒状，第 5 第 6 節は同様に甚だ大形で先端の外側に感覚栓群がある。臭孔のある側庇側縁には 4，臭孔のない側庇には 3 の波状突出部あり。臭孔はこの波状突出部のうち第 3 番目と第 4 番目の突出部の間にある溝部にあり小形で発見しにくい。後環節背面には横に 3 列をなす疣状突起あり。尚これらの疣状突起は体の後方へ行くほど大形となり且後方へかたむいて多少後方の後環節の上へかぶさるようになつている。側庇背面には 3 又は 4 の細長いカマボコ状の隆起がある。最後の歩肢の脛節の先にある大剛毛は長く且大形の円柱状突起の上にある。最後から 2 番目の歩肢の同じ場所にある大剛毛は短かく円柱状突起も低い，それより前方の歩肢に至るにしたがつてこの突起は目立たなくなる。

Abb. 4. *Archandrodesmus japonicus* sp. nov. Gonopode

生殖肢：基節は大形で貝殻状，外側に乳頭状顆粒密生す。前腿節には扁平卵形の突起とイカの腕状の大突起とを生じている。端肢は先端に多くの棘を生じほぼ真直である精管はその先に開口している。端肢の基部に大棘状突出部あり。*A. areatus* CARL との相異点は Résumé にのべる。

完模式標本：体長 4.5 mm の雄，別模式標本：体長 5 mm の雌。その産地東京都二子玉川，1951 年 4 月 5 日，芳賀昭治氏によつて採集された。

3. *Skleroprotopus osedoensis* sp. nov.

アルコール標本にて体色暗褐乃至黒褐，眼群は略等辺 3 角形，単眼の数は多いが個体により一定しない。一般的形質は本属の他の種に似ているが，しかし次の諸点で区別できる。雄の第 1 歩肢が甚だ大形で両基節はその正中線で接着しているし後面には稜線発達し凹凸が甚しい。又内側の肩部には剛毛が密生し後方から見るとそれが 2 群をなしている。端肢は 4 節からなるが脛後腿節は扁平筒状で長い。跗節は前方へ全く折れてしまつて後方からは見えない。雄の第 2 歩肢は第 1 歩肢に比して甚だ小形で他種に比して著しい特徴である。この小形な第 2 歩肢の基節は甚だ大形で端肢全長に匹敵する。基節は大部分互は癒着していて先端部のみ離れている。基節は幅広く全体として梯形，後面に円形の大凹部あり，そこに陰茎あり。陰茎は短く基節をこえない。雄の第 7 歩肢の基節は甚大，端肢甚だ小形で 1 節数本の剛毛あり。前生殖肢の基節突起は細長く，中央部に 2 本の剛毛あり。端肢も小形剛毛あり。

Abb. 5. *Skleroprotopus osedoensis* sp. nov.
A, B: 1. Bein　C: Auge　D, E: 2. Bein　F: 7. Bein
G, H: Vorderer Gonopode　I: Hinterer Gonopode

NII-Electronic Library Service

The Zoological Society of Japan

鞭状毛の先は 2 叉する。後生殖肢の形には特異な点なく，ただ先端の内縁に大形の 2 剛毛がある。

完模式標本：雄で体長約 50 mm，胴節数 64，その産地は熊本県球磨郡神瀬村松本槍倒瀬の上部の大瀬洞，採集者窪田敏文氏。別模式標本：雌，体長 47 mm，胴節 69，他に雄 3 疋，雌 2 疋，幼者 2 疋を採集された。採集日は 1953 年 12 月。以上 3 種類の標本を恵与されされた方々に深謝する次第である。

Résumé

Beiträge zur Kenntnis japanischer Myriopoden 19. Aufsatz: Über eine neue Gattung und zwei neue Arten von Diplopoden

Yasunori MIYOSI

Matuyama Kita Kōtō-Gakko

Senbutudoiulus gen. nov. (Blaniulidae)

Diese neue Gattung unterscheidet sich klar von der verwandten Gattung (*Skleroprotopus*) durch die folgenden Diagnosen: 1. Beinpaar des Männchens ist sehr gross, gerade, plattgedrückt und gestaltet sich ungefähr gleichbreit von Coxa bis Tibiopostfemur, und dessen Tarsus dreieckig und Kralle nicht vorhanden. 2. Beinpaar des Männchens ist normal, aber etwas plattgedrückt und die Kralle gut entwickelt. Mandibel mit über 6 Lamellen. Promentum gross und lang-eiförmig. Die anderen allgemeinen Merkmale ähneln sich sehr dem *Skleroprotopus*.

Genotypus: *Senbutudoiulus platypodus* MIYOSI

1. *Senbutudoilus platypodus* sp. nov.

Männchen ca. 50 mm lang, und ca. 60 Rumpfsegmente. Farbe bräunlichshwarz, etwas marmoriert. Hinterrand des Metazonites bräunlichgelb. Die Poren der Wehrdrüsen klein, aber sichtbar. 1. Beinpaar des Männchens fünfgliedrig, die Vorderseite all dieser Glieder dicht beborstet und Hinterseite ein wenig beborstet. 2. Beinpaar des Männchens normal, aber die Vorderseite all dieser Glieder dicht beborstet und die Hinterseite ein wen.g beborstet. Beide Hüfte lang und vereinigen sich nicht zusammen. Präfemur mit vielen, langen Borsten. Penis lang und über Präfemur hinausragend. 7. Beinpaar und Gonopoden wie sie sich in Abb. 2 zeigen. Holotype: Männchen, ca. 51 mm lang, und 62 Rumpfsegmente. Fundort: Senbutu-Dō Höhle, bei KOKURA-SI, FUKUOKA-KEN.

2. *Archandrodesmus japonicus* sp. nov. (Cryptodesminae)

Diese neue Art hat einige Ähnlichkeit mit *Archandrodesmus areatus* CARL, aber ist folgendermassen zu charakterisieren:

	A. areatus	*A. japonicus* sp. nov.
Körperfarbe	erdgrau	hell Zinnoberrot
Körperlänge	8–10 mm	4–5.5 mm
Körperbreite	1.6–1.8 mm	0.9–1 mm

NII-Electronic Library Service

The Zoological Society of Japan

Antenne	schlank, Sinnesfelder unbestimmt begrenzt.	gross und dick, Sinnesfelder bestimmt begrenzt.
Hintereck des Seitenflügels	vom 15. an als Zacke vorragend.	nicht besonders vorragend
Gonopoden	Acropodit, in der Mitte eine kurze Zacke abgibt	ohne solche Zacke

Holotype: Mäannchen, ca. 4.5 mm lang. Allotype: Weibchen, 5 mm lang. Fundort: FUTAGO-TAMAGAWA, TOKYO.

3. *Skleroprotopus osedoensis* sp nov. (Blaniulidae)

Ocellen schwarzlich, in ungefähr gleichseitigen dreieckigen Haufen gestalt. 1. Beinpaar des Männchens sehr gross, die Coxite stossen in der Mediane zusammen, und der grösste Teil davon verwächst, ausserdem die Innenschulter dicht beborstet. Telopodit besteht aus einem sehr kurzen Präfemur und Femur. Tibiopostfemur lang und platt, und dadurch das Tarsus stärker zurückgebogen. 2. Beinpaar des Männchens sehr verkleinert, aber trapezoidförmige Hüften gross und so lang wie Telopodit, und Hüften nur ca. 1/4 distal getrennt. 7. Bein des Männchens umgewandelt, sehr gross, aber mit sehr kleinem, nahe ber Basis eingelenktem Telopodit, das einige langen Borsten hat. Coxalfortsatz des vorderen Gonopods sehr schlank und mit zwei Börsten an dee Mitte. Die Flagella am Ende in zwei, gleichlangen Äste gegabelt, von denen der eine bestachelt. Holotype: Männchen, ca. 50 mm lang, und 64 Rumpfsegmente. Fundort: Osedō Höhle, KAMISE-MURA, KUMAMOTO-KEN.

会　　記 IV

中国四国支部岡山例会。 昭和 31 年 9 月 23 日　岡山大学理学部で行われた。

講　演
1. 岡山県下産繭量と気候との関係……………………川口四郎，作本台五郎 (岡 大・理・生)
2. ホトトギスの自然集団の生態 ……………………大 羽 滋 (岡 大・臨 海)
3. サワガニ胸部神経節神経分泌の季節的変化とその実験的誘起 (予報)……………………松 本 邦 夫 (岡 大・理・生)
4. 電気泳動法に依る血清リピドの研究 ……………………内 海 耕 造 (岡 大・医・病)
5. 血球及組織細胞の ATPase 活性に関する研究……………………村 上 哲 英 他 (岡大・医・生理)
6. 電子顕微鏡による平滑筋の研究 ……………………川口四郎，池本憲章 (岡 大・理・生)
7. 位相差顕微鏡による平滑筋の研究 ……………………川 口 四 郎 他 (岡 大・理・生)
8. ヨーロツパ各地の動物園について ……………………山 田 致 知 (岡 大・医・解)

中国四国支部山口例会。 昭和 31 年 11 月 11 日　山口大学文理学部で行われた。

講　演
1. 乳汁に存在する脂肪球の本性に対する生物学的検索 ………百 合 野 順 太 郎 (山 口・楠 木 町)
2. スズキ属 *Lateolabrax* の魚類について……………………片 山 正 夫 (山口大・防府分校)

中国四国支部徳島例会。 昭和 31 年 12 月 2 日　徳島大学医学部で行われた。

講　演
1. メダカに寄生するテトラコテイーレについて ……………………豊 岡 磊 造 (徳島・城南高校)
2. ワラジムシ類のサイナス腺について ……………………下 泉 正 敏 (徳島大・学芸・生)
3. 酸海水法によるバチ卵の人工受精 (第二報)……………………香 川 義 信 (徳島大・学芸・生)
5. マグネシウム濃厚海水法によるバチ卵の人工受精 …………岡 田 克 弘 (徳島大・学芸・生)

NII-Electronic Library Service